

令和4年度
埼玉学園大学大学院
心理学研究科 FD 活動報告書

令和5年6月14日
心理学研究科
FD委員会

目 次

1	はじめに	1
2	FD 活動に関する基本方針	
2-1	FD 委員会の委員構成	2
2-2	FD 委員会の開催日及び議題	2
3	心理学研究科教育体制	
3-1	教育方針（ポリシー）	3
3-2	研究科長による3ポリシーの検証	4
3-3	教育実施体制	5
4	授業アンケート・授業報告	
4-1	授業アンケート実施概要	13
4-2	教員の授業報告	14
5	研究発表会及び意見交換会	
5-1	研究発表会	35
5-2	大学院専任教員と客員教員及び大学院生による意見交換会	35
6	論文審査について	
6-1	修士論文中間報告会	36
6-2	学位論文発表会及び最終試験	37
7	おわりに	37
	参考資料	
1	埼玉学園大学大学院FD委員会規程	38
2	学生向け授業に関するアンケート実施のお願い（様式）	39
3	授業についてのアンケート（様式）	40
4	教員の授業報告（様式）	41
5	中間報告会の振り返り	42

1 はじめに

埼玉学園大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻は、平成 26 年度に臨床心理士養成のために開設されました。その目的は、高度かつ実践的な臨床心理学の専門知識を習得し、対人技術能力を培い、教育、福祉及び医療などの領域において、国民の生涯にわたる持続的な福祉と心の健康を支えることに寄与するところであり、本学の教育理念である「広く社会に貢献できる人材を養成」に沿うものである。

なお、現在は国家資格である公認心理師の養成プログラムに対応したカリキュラムを開講しています。

本心理学研究科における大学院教育が当初の教育目標を十分達成されたかどうかを検証することと、もし不十分な点があれば早急に改善を図り、さらに本研究科教育を充実したものにするために、埼玉学園大学大学院心理学研究科FD活動報告書を作成している。

2 FD活動に関する基本方針

心理学研究科におけるFD委員会の基本方針と役割、FD委員会規程については、当初の通りで変更はない。
(参考資料1) 令和4年度のFD委員会の構成員は、以下の通りである。

2-1 FD委員会の委員構成

委員等	所属・職名	氏名
委員長	FD委員長	大川 一郎
委員	心理学研究科教授	安崎 文子
委員	心理学研究科教授	古澤 照幸
委員	心理学研究科准教授	川久保 惇
委員	心理学研究科講師	泉水 紀彦
委員	心理学研究科兼任教員	尾形 和男

2-2 FD委員会の開催日及び議題

令和4年度に開催された委員会の日時と議題は以下の通りである。

【令和4年度 FD委員会の開催日及び議題】

開催日	議題
令和4年 7月13日	(1) 令和4年度研究発表会の実施について (2) 令和4年度教育研究に関する意見交換会の実施について (3) 令和3年度FD活動報告書について
令和4年 11月9日	(1) 令和4年度研究発表会の報告について (2) 令和4年度意見交換会の報告について
令和5年 2月8日	(1) 令和5年度のFD活動について

3 心理学研究科教育体制

3-1 教育方針（ポリシー）

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心と行動についての深い理解と科学的思考を身につけ、臨床的態度と専門的技法をもって人々に心理的援助のできる人材の養成を目的としています。このため、学位授与の要件としては、学生に次のような能力の修得を求めます。

- ① 学生が臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床的実践力を修得していること。
- ② さらに、実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と理論的洞察を支えるための研究スキルが備わっていること。

これらの観点を踏まえて、以下の要件を満たしているときは、修了を認め、修士（臨床心理学）の学位を授与します。

大学院に2年以上在学し、履修要件に定める授業科目を履修し、専門科目35単位（必修25単位を含む）以上、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」各4単位の合計43単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。本研究科は、文部科学省・厚生労働省の公認心理師法の定める必要科目を履修することにより、公認心理師の受験資格が得られます。

また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院となっており、学位の取得により、臨床心理士の受験資格が得られます。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として、個人及び組織・地域からの援助希求に対して高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成します。

具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域によって編成されます。

教育課程編成の目的を効果的に実現するために、教育方法として、通常の講義形式のほか、事例研究方式、課題討論方式、ロールプレイ、グループワークを含む模擬実習など、具体的かつ実践的な体験学習を多く組み入れます。

なお、カリキュラム編成においては、文部科学省・厚生労働省の定める公認心理師法の必要科目を履修し、達成すべき到達目標を実現するように配置されています。さらに、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による指定要件を踏まえて臨床心理士養成指定大学院一種の認定を受けています。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心の問題に対応する実践的な人材として高い専門性と臨床的立場でのコミュニケーション能力および問題解決能力を重視する教育を目指します。本研究科の修了生には、公認心理師や臨床心理士としての活躍が期待されており、入学生には、学修成果の達成に必要な基礎的な知識・能力と明確な目的意識が求められます。

このため、本研究科では、次のような方法で入学者の選抜を行います。

【選抜試験】

- ① 入学後の研究課題と問題意識を明らかにした研究計画書を提出させる。
- ② 設置している科目の履修に必要な基礎知識を量るため、専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験を行う。
- ③ 書類選考及び口述試験により、公認心理師や臨床心理士としての人間的資質を確認する。

本研究科は、研究奨励目的に成績優秀な学生に、選考により最大2年間にわたり、返還のない奨学金制度を備えています。

3-2 研究科長による3ポリシーの検証

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科は、心の健康を支援する人材の養成を目的として、人間存在に対する深い理解と科学的思考を身につけ、心理支援者として期待される臨床的態度と専門的技法の習得を目指している。より具体的には、①公認心理師資格試験と臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床実践力を修得していること、②実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と論理的洞察を支える研究スキルが備わっていることの二点である。

上記目標の達成は、学内・学外の臨床実習と平行して、特別課題研究の修士論文作成にも取り組む必要があることから、学生にとって心身および時間的負担が大きい課題である。そのための指導体制として、学生一人ひとりに集団指導による複数の臨床指導教員と、主・副の研究指導教員を置き、それぞれ連携協力しながら指導を行っている。すなわち、一人の学生に対して複数の教員が責任をもってかわり、心身の状態に考慮しながら教育指導にあたることで、院生の学修を支援している。令和4年度の本研究科修了生は3名であったが、全員が臨床実習と修士論文作成に意欲をもって取り組み、高い水準で成果を上げたと評価することができる。修了後の進路としても、児童発達支援領域での常勤あるいは非常勤による就職を果たしており、質の高い心理支援者を輩出しうる研究科としての実績を残している。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成している。具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域である。すなわち、十分な臨床実践力と科学的思考を備えた、個人・集団・社会の要請に応えうる心理支援者を養成するための体系的な教育課程を編成している。

なお、本研究科は、公認心理師ならびに臨床心理士養成の指定科目に対応しており、基礎から応用へと学修を積み上げ、かつ多様な心理支援領域への展開を可能とすべく科目を配置している。令和4年度の修了生は、いずれもそれぞれが希望する領域へと就職しており、人の心と社会に貢献する人材を輩出しうる教育内容を備えていることが示されている。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科は、公認心理師、臨床心理士として心の健康を支援する人材の養成を目的としている。そのため、入学生には学修成果の達成に必要な基礎的知識や論理的思考力、および明確な目的意識と学修に取り組む準備状態としての心身の安定性を求めており、次のような方法で入学者の選抜を行っている。

一般選抜入学試験（一般学生・社会人・外国人留学生）では、①研究計画書の提出、②専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験、③心理支援者としての人間的資質および適性について書類選考及び口述試験による確認を行う。令和4年度に一般選抜で入学した学生は5名である。いずれも入学後に意欲的に学修に臨み、確実に学修プロセスを進めていることから、一般選抜入学試験は適正に実施されたと評価することができる。

（大川 一郎・佐々木 美恵）

3-3 教育実施体制

令和4年度は、専任教員及び客員教員を併せて、18名の教員で授業・研究指導を行った。それぞれの詳細は、次の通りである。

3-3-1 専任教員

No.	氏名	職位	学位
1	大川 一郎	教 授	博士（心理学）
2	藤枝 静暁	教 授	博士（心理学）
3	安崎 文子	教 授	博士（障害科学）
4	佐々木美恵	教 授	博士（生涯発達科学）
5	羽鳥 健司	教 授	博士（心理学）
6	古澤 照幸	教 授	博士（心理学）
7	遠藤 寛子	准 教授	博士（心理学）
8	川久保 惇	准 教授	博士（心理学）
9	米村 朋子	准 教授	博士（心理学）
10	伊里 綾子	講 師	博士（心理学）
11	佐藤 洋輔	講 師	博士（心理学）
12	泉水 紀彦	講 師	博士（心理学）
13	中谷 隆子	講 師	博士（心理学）

合計 13 名

3-3-2 客員教員/兼任教員

No.	氏名	職位	学位
1	柴田 勲	教 授	—
2	杉山 雅宏	教 授	博士（心理学）
3	山本 晴義	教 授	博士（医学）
4	古曳 牧人	准 教授	修士（文学）
5	尾形 和男	兼 担	博士（教育学）

合計 5 名

3-3-3 担当授業科目・研究指導

各教員の担当授業は、以下の通りである。

埼玉学園大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻修士課程 授業科目及び担当教員

科目区分	科目名	担当教員
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎
	臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司
	臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵
	臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子
	臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝 静暁/伊里 綾子
	臨床心理基礎実習Ⅱ	佐々木美恵/佐藤 洋輔
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	羽鳥 健司/泉水 紀彦
	臨床心理実習Ⅱ	大川 一郎/中谷 隆子
基礎科目群	データ解析法特論	米村 朋子
	臨床心理学研究法特論	佐藤 洋輔
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	尾形 和男
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎
	人間関係学特論	古澤 照幸
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	山本 晴義
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子
	心理療法特論	羽鳥 健司
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子
	学校臨床心理学特論	中谷 隆子
	グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	川久保 惇	
研究指導	特別課題研究Ⅰ・Ⅱ	大川一郎/藤枝静暁/安崎文子/ 古澤照幸/遠藤寛子/佐々木美恵/ 羽鳥健司/杉山雅宏

3-3-4 カリキュラム

本研究科の教育課程の具体的目標は、高度かつ実践的な心理学の専門知識の習得と対人技術能力の育成にある。より具体的にはさまざまな心理的問題を抱える人に深く関わる共感能力と質の高いコミュニケーション能力を有し、そうした資源を駆使して、個人及び組織・地域からの援助希求に対して個人的な心理支援とともに組織的で協働的な心理的支援ができる公認心理師、臨床心理士の養成である。

これらの目的を達成するために、「基幹科目群」、「基礎科目群」、「発展科目群」、「研究指導」の4科目群で教育課程を編成している。具体的な編成は以下の通りである。

【教育課程の概要 心理学研究科 修士課程】

学位又は称号	修士（心理学）	学位又は研究科の分野	心理学関係	
卒業要件及び履修方法			授業時間等	
必修科目 33 単位を含め、43 単位以上を修得し、かつ、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）の時間は 450 時間以上とする。			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	15 週
			1 時限の授業時間	90 分

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	1	2			○		
	臨床心理学特論Ⅱ	1	2			○		
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1	2			○		
	臨床心理面接特論Ⅱ	1	2			○		
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2				○	
	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2				○	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	1					○
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	1					○
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	1・2	10					○
基礎科目群	臨床心理実習Ⅱ	2	1					○
	臨床心理学研究法特論	1・2		2		○		
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	人間関係学特論	1・2		2		○		
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	1・2		2		○		
	心理療法特論	1・2		2		○		
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	学校臨床心理学特論	1・2		2		○		
	グループ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2		2		○		
	産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
研究指導	特別課題研究Ⅰ	1	4				○	
	特別課題研究Ⅱ	2	4				○	

3-3-5 時間割表

令和4年度 埼玉学園大学大学院 心理学研究科時間割表

【春期】

時限	月				火				水				木				金			
	科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室	
1限 9:00 ～ 10:30					臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	佐々木美恵	研修員室						臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝 静枝 伊里 綾子	研修員室					
2限 10:40 ～ 12:10	臨床心理学研究法特論	佐藤 洋輔	研修員室		障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	安崎 文子	研修員室		教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	尾形 和男	研修員室		臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝 静枝 伊里 綾子	研修員室					
3限 13:00 ～ 14:30	犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	古鬼 牧人	研修員室		臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	研修員室						臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	羽鳥 健司	研修員室					
4限 14:40 ～ 16:10													データ解析法特論	米村 朋子	505					
5限 16:20 ～ 17:50													臨床心理実習Ⅱ	大川 一郎 中谷 隆子	研修員室					
6限 18:10 ～ 19:40													臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽鳥 健司 泉木 紀彦	研修員室					
7限 19:45 ～ 21:15													臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽鳥 健司 泉木 紀彦	研修員室					

1) 「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。

【秋期】

時限	月				火				水				木				金			
	科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室		科目名	担当者	教室	
1限 9:00 ～ 10:30									精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	柴田 勲	研修員室		臨床心理基礎実習Ⅱ	佐々木美恵 佐藤 洋輔	研修員室					
2限 10:40 ～ 12:10	学校臨床心理学特論	中谷 隆子	研修員室		グループ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	藤枝 静枝	研修員室		臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	研修員室		臨床心理基礎実習Ⅱ	佐々木美恵 佐藤 洋輔	研修員室					
3限 13:00 ～ 14:30	産業組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	川久保 惇	研修員室		発達心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	大川 一郎	研修員室						臨床心理面接特論Ⅱ	泉木 紀彦	研修員室					
4限 14:40 ～ 16:10	人間関係学特論	古澤 照幸	研修員室		臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	研修員室						心理療法特論	羽鳥 健司	研修員室					
5限 16:20 ～ 17:50													臨床心理実習Ⅱ	大川 一郎 中谷 隆子	研修員室		健康心理実践特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	遠藤 寛子	研修員室	
6限 18:10 ～ 19:40													臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽鳥 健司 泉木 紀彦	研修員室					
7限 19:45 ～ 21:15													臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽鳥 健司 泉木 紀彦	研修員室					

1) 「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。

集中講義

科目名	担当者	教室	日	程
心身医学特論	山本 晴義	研修員室	10/28、11/4・11・18・25、12/2・9の3・4時限目、12/16の3時限目	

3-3-6 院生数

今年度（令和4年5月1日現在）本学大学院に在籍する院生の詳細は、以下の通りである

総数、入試形態別人数、年齢別人数、男女別人数

① 総 数 9名

② 入試形態別人数（名）

	一般選抜	学内選抜
修士課程1年	5	1
修士課程2年	4	1

③ 年齢別人数（名）

	22歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～
修士課程1年	4	-	-	1	-
修士課程2年	2	2	-	-	-

④ 男女別人数（名）

	男性	女性
修士課程1年	2	3
修士課程2年	2	2

3-3-7 研究題目一覧

<修士課程1年>（修士論文中間報告会：令和5年2月22日）

- ・児童における愛着と援助規範意識および向社会的行動の関連の検討
- ・教師のSCに対する意識調査からみたニーズや役割の検討
- ・青年期の対人関係における失敗経験への原因帰属と対人恐怖心性、対人意欲との関連
- ・ニューカマーの子供のホーム帰属感と主観的幸福感の関係について
- ・大学生のデイリーハッスル水準の対人ストレスに対する意味づけの影響
—自己成長間と抑うつへの影響に着目して—

<修士課程2年>（修士論文発表会：令和5年2月7日）

- ・大学生が抱えている教員のイメージが相談希求に及ぼす影響
- ・養護教諭の職務における養護教諭と教諭間の認知差に関する探索的研究
- ・システムエンジニアを対象とした仕事遂行を支援するソーシャルスキルの解明

3-3-8 履修状況

履修状況及び定期試験実施方法は、次の通りである。

【春期】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	5
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司	5
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵	5
臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝静暁/伊里綾子	5
データ解析法特論	米村 朋子	5
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	尾形 和男	5
発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎	5
犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人	5
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子	5
学校臨床心理学特論	中谷 隆子	5

【秋期】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	5
臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦	5
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	5
臨床心理基礎実習Ⅱ	佐々木美恵/佐藤洋輔	5
臨床心理学研究法特論	佐藤 洋輔	4
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	山本 晴義	5
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲	5
健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子	5
心理療法特論	羽鳥 健司	5
グループアプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁	5
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	川久保 惇	5

【通年】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理実習Ⅰ（心理実践演習）	羽鳥健司/泉水紀彦	5
臨床心理実習Ⅱ	大川一郎/中谷隆子	3
特別課題研究Ⅰ	藤枝 静暁	3
特別課題研究Ⅱ	大川 一郎	1
	藤枝 静暁	3
	羽鳥 健司	1

3 - 3 - 9 定期試験

博士前期課程

【春期】

科目名	担当者	試験内容
臨床心理査定演習Ⅰ	佐々木美恵	筆記試験
障害者(児)心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子	レポート
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	尾形 和男	レポート
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司	レポート
臨床心理学研究法特論	佐藤 洋輔	レポート
データ解析法特論	米村 朋子	レポート
犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人	レポート
臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	レポート

【秋期】

科目名	担当者	定期試験
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲	筆記試験
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	筆記試験
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	レポート
発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎	レポート
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	川久保 惇	レポート
臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦	レポート
学校臨床心理学特論	中谷 隆子	レポート
心理療法特論	羽鳥 健司	レポート
健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子	レポート
グループアプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁	レポート
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	山本 晴義	レポート

3-3-10 実習について

実習については、2年次の履修科目である「臨床心理実習Ⅱ」の学外実習を視野に置きながら、1年次の「臨床心理基礎実習Ⅰ(心理実践実習)」の課外ワークとして、「埼玉学園大学臨床心理カウンセリングセンター(以下カウンセリングセンターとする)」での学内実習と学外の保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行った。

カウンセリングセンターでは、受付業務の研修を行い、相談事例のケースマネジメントを学ぶ。また、相談員とスーパービジョン契約を結び、学習状況によって「可」と判断された場合は担当事例の面接陪席、相談員の補助などを担当し、それに対する継続的なスーパービジョンを受けることにより、事例担当能力を習得する。その技能習得のため、毎週水曜日夕方に実施される受理会議や事例検討会への参加を義務づけた。

学外実習では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野について臨床心理士が在職する教育・福祉・医療関係の各施設見学とケースワーク等にかかわる研修実習を行った。実習は、下表の12箇所で行われた。これらの活動については、「埼玉学園大学臨床心理学研究」第8巻の活動報告として掲載されている。

【臨床心理実習先一覧】

分野	実習施設
保健医療	ひがメンタルクリニック かたやまクリニック 川口市立医療センター
福祉	荒川区立心身障害者福祉センター荒川たんぼぼセンター 児童養護施設 埼玉育児院 児童発達支援・放課後等デイサービス Moi！東所沢駅前教室
教育	朝霞市子ども相談室・適応指導教室 志木市立教育サポーターセンター 越谷市教育委員会学校教育部教育センター
司法・犯罪	さいたま保護観察所
産業・労働	ティーペック株式会社 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント

4 授業アンケート・授業報告

4-1 授業アンケート実施概要

令和4年度春期における授業を対象として7月に、秋期における授業を対象として12月に、院生への授業アンケートを実施した。対象科目は2名以上の講義科目である。

実施時期

春学期：令和4年6月27日（月）～ 7月8日（金）

秋学期：令和4年12月5日（月）～ 12月16日（金）

実施方法

春学期・秋学期ともに、科目担当者がアンケート用紙を配布（参考資料2）、実施した。回答形式は、設問に対する自由記述式としている。回答用紙の回収については、院生が回収し、事務に提出することとした。

回答学生数

春学期：アンケート回収数34／履修者数（延べ人数）34（回収率100%）

秋学期：アンケート回収数61／履修者数（延べ人数）61（回収率100%）

実施結果

結果は次項からの記載内容の通りであるが、全般的にきわめて満足 of いく結果を得ることができた。授業アンケート用紙は参考資料として掲載している。

4-2 教員の授業報告

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 羽鳥 健司

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	春期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士・公認心理師の受験資格を得るため。また、各種理論を学びたいと思ったため。 大事な知識で臨床心理学の基礎だと思ったため。 興味があったため。 臨床心理学の面接について改めて詳しく確認するため 必修科目のため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接は関係ないが、自分の研究を用いて、実際に現場で役立てていくのイメージついた。 各療法について学びましたので、今後、クライアントに対してどう理解していくか、どんなぎほうが適當かななどを考える時、役に立つと思います。 様々な心理療法について学び、どの症状に足して有効かを学び、これから役立ちそうです。 様々な心理療法について現場についても話を聞きながら深く知ることが出来た。 心理療法における諸理論や技法の概観 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 満足できました。(複数回答) どういう人にどういった技法、療法が効果的かなどを知ることが出来、とても有意義だった。 院生主体の授業で、先生が補足を加えて下さり、満足度の高い授業であった <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特にありません。(複数回答) 	<p>現在で最も使用されている心理療法を中心に、歴史的に重要な心理療法を含めて、主要な心理療法を網羅的に学習することを目的とした。各心理療法の理論や方法論のみでなく、実際の事例でどのように運用されているのかまで取り上げた。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 特任教授
氏名 安崎 文子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
障害者（児）心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	春期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国試の受験資格を得るためです。(複数回答) ・障害を抱える方の心理や特性を学部で習った時よりも詳しく知りたいと思ったからです。 ・知識を得たいから ・必修科目のため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験協力者に障害を抱えている人もいるかもしれないので、合理的配慮を心がけようと思いました。 ・障害を持った人たちがどういったことが出来て、何ができないのかを知ることが出来、障害者別に何の知能検査を使うのが効果的かを知ることが出来ました。 ・障害者や障害児の診断基準、症状や心理的問題を理解できる。 ・障害の診断基準やポイントとなるところを学ぶことができ、今後に役立ちそうです。 ・障害に対するより深い理解と現場での対応。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かい情報や現場での実際の様子などを知ることが出来、今まで知らなかったけれど、知っておくべきことを学べて良かったです。 ・満足しました。 ・少し進めるスピードが速かったですが、たくさんのことを教えてくださりました。 ・テーマに沿って進められており、おおむね満足できるものであった。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害についての内容は教科書を読めば良い話なので、もっと教科書だけでは分からないことや、ディスカッションを多く取り入れてほしいです。 ・特になし。(複数回答) 	<p>1. 多くの学生は、障害児者には興味がなく、国試に必要な教科だからだけという理由で受講していた。しかし、実際の心理臨床では、非常に多くの障害をお持ちの方が実際に存在し、臨床に必須であることを理解してもらおうと心掛けた。</p> <p>2. 健常者より少しできないことが多い方たちではなく、各障害により固有の認知方略や症状があることを理解してもらえよう心掛けた。</p> <p>3. 昨年と比べて改善点は、アクティブ・ラーニングを増やしたことだった。実際に障害についての検査の被験者になってもらう機会を増やした。特に、発達害について、実際に行う検査の数を増やした。</p> <p>4. 院生として最低限必要な知識であると判断し、できるだけ多くのことを教えた気持ちは強く、資料が多くなりがちだった。そこで、教師自身の資料は減らし、学生の文献発表の場を設けたい。</p> <p>5. 今年の学生は、昨年の学生とは大分様子が異なっていた。多分、毎年、個性が異なり、教員の対応も、その度に変えていかなければならない、と考えている。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 佐々木 美恵

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	春期	5	※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載 1. 心理的アセスメントの実践上の意義を理解する。 2. 心理的アセスメントに関する理論と方法を修得する。 3. 知能検査の実施から所見書作成、フィードバックまでの知識と技能を修得する。 4. 相談、助言、指導に十分に活かすことができる心理的アセスメントの知識と技能を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> • 各心理検査の理論的側面を学習し、差異や特長を十分に理解できるように努めた。 • 履修者同士のテスター・テスト体験によって、実践的、体験的に各種検査を修得できるように工夫した。 • クライアントへの支援、対応に資する所見書を作成できるように、個別指導をベースとして指導を行った。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 佐藤 洋輔

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に関心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学研究法特論	春期	4	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究法や分析法について、自分が研究をする上でよく知っておく必要があると思ったため。また、選択肢を増やしたいと思ったため。 ・修論の作成のために、研究法について詳しく知りたいと思ったから。 ・修士論文の作成のため。 ・臨床心理学における研究法の知識・理解を深めるため ・修士論文における研究方法について深堀氏、適切な方法を選択できるようにするため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの研究が何を目的として、どういう仕組みで行われるかについて、理解が深まり、論文を読む際の視野が広がりました。 ・修論の作成の流れや調査法を学びました。自分を研究したいこととはどのようなことか、適切なデータ収集方法や分析法は何か、などが明らかになりました。 ・質的研究について種類や、その方法など、具体的なところを知ることができた。 ・具体的な方法論、エビデンス ・自分の研究方法が適切かどうか、判断材料になること。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前よりも論文に対し、疑問が出てきたり、明らかになっていない部分に気づくことができるようになったと思うので良かったです。 ・また、自分の研究を行う上ではっきりさせるべき点や考慮すべき点を知ることができました。 ・満足できました。(複数回答) ・速すぎない進み具合で、具体例を出しながら説明して下さいました。 ・テーマに沿った授業展開となっており、より理解が深まった。 ・授業資料も毎回用意され、全体的に満足度が高い授業であった。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。(複数回答) 	<p>本授業の目的は、臨床心理学研究において用いられる様々な方法論について、実際の様々な研究論文への理解を通して学びを深めることであった。また、本授業は修士論文執筆に求められる基礎的なスキルを身に着けるための授業であることから、受講生一人一人が自身の修士論文について、①自身の明らかにしたい課題は何か、②疑問を解決するための適切な方法論は何か、③先行研究では類似した疑問を解決するためにどのような方法を採用しているか、を考える機会となることを意識し、次のような工夫を行った。</p> <p>第一に、受講生が自身の研究デザインについて発表を行うワークを実施した。ワークに取り組む際は、事前に研究全体の構造やそれぞれの要素において考えるべきポイントについて教員から説明を行い、学生は提供されたワークシートに記入するだけで自身の研究を俯瞰的に振り返ることができるように工夫を行った。また、このワークは第2回目の授業と第15回目の授業において計2回実施し、本授業の受講前後で自身の研究計画において検討が不十分だった点や、新たな気づきについて振り返る機会を提供した。</p> <p>第二に、各回においてテーマとなる方法論を決め、それぞれのテーマについて学生が実際の研究論文を発表し、ディスカッションする時間を設けた。このことにより、授業は教員が研究の方法論について基礎的な知識を説明する「講義パート」と学生が実際の研究論文について自身で理解したことを発表する「発表パート」の二部構成となり、授業で扱うすべてのテーマについて、実際の研究例を通して方法論への学びを深めることができたと考えられる。</p> <p>改善点として、学生が主体的に考え、発表する機会を設けることはできたものの、授業内での双方向的なコミュニケーションは教員—学生間が主であり、学生同士でのコミュニケーションについてはやや不足していたと考えられる。次年度以降では、発表パートにおいては学生がファシリテーターとなって学生同士のディスカッションを含む授業の進行を一部担当するなど、学生同士で積極的に意見交換を行うことができるような工夫が必要であると思われる。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授、講師
氏名 藤枝、伊里

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理基礎実習 I	春期	5	<p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>1. 心理専門職に求められる基礎的かかわり技術について理解できる。</p> <p>2. 面接場面においてヘルピング・スキルを効果的に使うことができる。</p> <p>3. 援助者役割と被援助者役割を相互体験することにより、援助機能の意味と効果について理解する</p>	<p>授業序盤と終盤の2回、ロールプレイによって、関わりの技術を測定することで、全15回を終えた後に学生が何を身につけることができたのか、学生自身が実感をもって振り返ることができる工夫をした。</p> <p>また、ロールプレイによる実習の後には必ず、学生同士や学生と教員が疑問を共有し、質問をすることができる時間を作り、その時間内に疑問を解決し、次の課題を見つけることができるよう心掛けた。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 准教授
氏名 米村 朋子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に関心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
データ解析法特論	春期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計処理を spss、R、Had を用いて実行できるようになり、修論に役立てるため。 ・修士論文のため。(複数回答) ・研究の際に必要な分析方法について詳しく理解するため。 ・データ分析に課する知識・技能向上のため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ spss、R、Had の使い方がおぼろげながら分かってきたため、修論の統計処理に役立てることができそうです。 ・今まで使ったことのないツールを使って分析したため、今後気軽に家でも分析できるように役立ちそうだと思います。また、どういときにどの方法を使うのかを考えるのに役立ちました。 ・ spss だけでなく、HAD や R といったツールの使い方や結果の見方などを学べて、とても有用だと思いました。 ・データ分析の方法、結果、解釈の見方。 ・自分が収集したいデータをどんな分析方法が適当なのか、分析方法の選択などについて学びました。大変重要な授業だと思います。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人柄もよく概ね満足できました。 ・私たちが理解できるように丁寧に教えて下さいました。また、論文での記述の仕方も教えて下さり、満足しています。 ・どういうデータに対し、どのような分析を用いるのか、実践したうえで理解することが出来たので、満足です。 ・こちらのペースに合わせていただき、満足度の高い授業であった。 ・満足です。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し、実技以外にも「なぜ、こうなのか」というのを教えてほしいです。 ・特になし。 ・スライドが速いので、要点をまとめた別の資料があると良いかもしれません。 	<p>本科目は、実証的な心理学研究を行うために必要な「データ解析スキル」を確認及び向上させることを目的として、演習を中心に実施した。シラバスをベースに、学生のレベルに対応した内容に随時修正を加えながら、例えば、未経験の解析手法に取り組みせるなどの要素を増やし、解析の応用力を身に付けてもらうような演習とした。結果、学生の積極的な参加が得られ、最終課題(レポート)の評価も含め、到達目標の80%以上が満たせたと考えている。</p> <p>授業アンケートから「複数の統計ツールに触れられたメリット」に関するコメントが得られ、本科目の学修の狙いが伝わったことが確認できた。ただ、科目で扱うべき内容の多さや複雑さから、授業速度や要点の示し方については改善を求める声もあり、今後の課題としたい。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 客員准教授
氏名 古曳 牧人

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	春期	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公認心理師受験のための必修科目のため (複数回答) ・ 司法領域での心理士の役割を知りたかったため。 ・ 犯罪・非行を犯してしまう人の行動原理を想定することが、授業を受ける前の自分ではよく理解していなかったため履修しました。 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 非行少年の非行行動の心理的原因や社会、家庭などとの関連について深く理解できます。 ・ 研究には関係ないが、犯罪分野における理解や事象、背景などを理解するよい機会となった。 ・ 犯罪を犯す人の事情や、その対応の仕方、改善すべき点などを知ることができました。 ・ 非行犯罪の原因や理論、現状について理解を深めることができ、社会的な問題を考える機会になりました。 ・ 研究に直接関係があるわけではないのですが、環境の大切さが分かり、自分の意志力で問題に対処するだけでなく、環境を整えてあげることの大切さがわかりました。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足できました。(複数回答) ・ 授業は毎回、テーマに沿って進められており、概ね満足できるものであった。 ・ 司法現場に関しては、個人的にわからない部分も多かったので、心理士の活動を知ることが出来て良かったです。 ・ わかりやすく説明して下さい、満足できています。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ もう少し、院生に発言させたり、考えさせたりする形式の方が、より集中できると思いました。 ・ 特になし。 	<p>公認心理師科目であることから、指定された内容を踏まえた上で、犯罪者、非行少年の実情や司法・犯罪領域の心理職の業務内容を具体的に理解できるように心掛けた。</p> <p>犯罪・非行の心理的要因の理解のみならず、社会的要因や更生に向けた働き掛けについてもバランスよく説明するようにした。</p> <p>実務経験を活かして、司法・犯罪領域における業務の実際の様子を伝えるようにした。</p> <p>質問等については自由に行ってよいこととしていたが、院生からの自発的な発言は少なかった。教員から発言を求める機会を増やすことを検討したい。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 大川 一郎

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
発達心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性向上のため ・発達心理学に興味がある ・それぞれの発達段階における問題の理解のため ・知識を得るため ・大川先生の視点・枠組みをトレースするため ・臨床心理士・公認心理師の受験資格を得るため <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の読み取り方 (アセスメントの際の視点や結果の解釈など) ・支援の観点から各発達段階における心理的な問題や、身体・社会面の問題はどんなふうに関連しているかを理解しました。 ・検査をおこなううえで気を付けることや、認知症の方の理解に繋がりました ・小さい子の発達だけでなく、老年期までも含めて発達を理解できました。一時点だけではない見方を役立てそうです。 ・実験のために質問紙を使う際は、やみくもにとるのではなく、意図を明確にして使おうと思いました。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足できました (複数回答) ・詳しい内容まで教えていただき新しい発見が得られました ・心理検査についても扱っていただき理解を深めることができました <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし (複数回答) 	<p>人の生涯の発達における諸課題に焦点をあてて、発達とは何か、発達の中で生じる困りごとに対してどのように理解し、支援していったらいいのかということについて、生涯発達の視点から考えていった。</p> <p>具体的には、日本や世界がおかれている社会状況や課題について理解した上で、生涯発達における困りごとや対応について概観した。その上で、人の発達を支える要因、発達の諸相について情報提供をおこない、理解を深め、さらに、発達の中で適応するという意味についての考えを深めた。</p> <p>上記のために、さまざまなソースから、テキストベース、動画ベース、DVD等、実に多様な媒体を用いて、深く考えさせられる情報の提供をおこなった。</p> <p>受講生は、ほとんど休むことなく、出席をしており、リアクションペーパー等の反応も熱心であった。こちらの提供した講義内容についての理解は深まっており、当初の講義目標は、十分に達成したものと判断する。</p>
特別課題研究 I	通年	1	<p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 各自の研究テーマに即した文献検索が適切にできる。 (2) 各自の研究テーマを内外の先行研究と関連づけて、深めることができる。 (3) 各自の研究テーマに即した方法論を展開できる。 (4) 各自の研究テーマに即した研究計画を作成、実施することができる。 (5) 各自の研究テーマについて、簡潔明瞭にプレゼンテーションを行うことができる。 	<p>当初の目標は概ね達成された。</p>
臨床心理実習 II	通年	3	<p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己都合による欠席は認められない。諸般の事情により出席困難な場合は、事前に申し出て承諾を得ること。 2. 実習にあたり、指導相談員への相談・報告を怠らないこと。 	<p>当初の目標は概ね達成された。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 藤枝 静暁

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
グループ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味があったから。 ・ソーシャルスキルを学びたいです ・グループアプローチの方法を学びたかったため。 ・SSTの方法を学ぶため ・専門性向上のため <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と関わるときのスキルを学ぶことができ、研究もですが、実践として自分が教育現場などでやるときに役立ちそうだと思います。 ・とても面白い授業です。集団に対するソーシャルスキルトレーニングを行う際に、あるいは学校現場に使いやすい知識です ・ソーシャルスキルの理論的な部分やその仕組みを理解できました ・自分の研究も予防的介入法なので、同様のSSTを実際どのように行うのかは参考になりました ・心理学におけるSSTの立ち位置ややくわりの実践方法について <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にファシリテーターとして行ってみる機会や、学校現場を想定して行ったため、とても勉強になり満足しました。 ・大満足です ・ロールプレイにより持った疑問やできない感覚を、先生のお手本を見ることで解消でき、学びが多かったと感じています <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。・特にありません。 	<p>感想を拜見し、嬉しく思います。</p> <p>5名全員が関心を持ち、熱心に参加してくださったお陰です。私も皆さんと楽しく演習できました。皆さんに感謝しております。</p> <p>社会人になって、余裕が出てきたら、現場でSSTを実践してみてください。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 藤枝 静暁

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
特別課題研究Ⅰ	通年	3	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・修論を完成するため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・先生の指導を受けて、修論が順調に進みました ・テーマの確定と今後の研究の進め方 ・具体的にどのように進めていくかなど方向性もわかりやすいです 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・大満足です 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし	ゼミ生のお二人は主体的に、一生懸命に取り組んでいました。 二人と共に学ぶ過程で、私も多くの気づきと学びを得ることができました。 二人には心より感謝しております。
特別課題研究Ⅱ	通年	3	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・修論を完成するため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・アドバイスをいただいた ・自分自身考えていなかった部分や足りない部分を知ることができた 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・大満足です ・ありがとうございました。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし	ゼミ生のお二人は、前期から引き続き、一生懸命に取り組んでいました。 忙しい中でも、倫理審査、調査実施等に向けてコツコツと進めていました。 今の姿勢を継続していきましょう。多少なりともサポートさせていただきます。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 佐々木 美恵

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学特論Ⅱ	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必修のため。 ・ 専門性向上のため。 ・ 精神分析的な視点を理解するため。 ・ 臨床についての知識を深めるため。 ・ 知識の確認と新しい学びのため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の面談に向けての大切な知識として活用できると思う。 ・ 各障害や疾患に関する知識が身についた。 ・ 論文作成に役に立った。 ・ 専門的知識や社会的視点を考える機会になった。 ・ 問題をかかえる人たちの実態を知ることが出来て参考になった。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足できた。(複数回答) ・ 多岐にわたるトピックを学ぶことが出来た。 ・ 自分で発表資料を作ることにより、理解を深めることが出来た。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特にありません。ありがとうございました 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理学における重要なトピックを選定し、院生が視野を広く、深くもてるような指導を心がけた。 ・ 臨床実践については、学内実習で活用できる実践的知識のほか、精神分析的な心理療法の実際を伝えられるように工夫した。
臨床心理基礎実習Ⅱ	秋期	5	<p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学的援助の専門家として必要な考え方や技能、倫理を身につける。 2. インテーク、アセスメントを適切に実施し、記録をまとめることができる。 3. 外部機関や関係者との連携における方法と留意点、実践上の課題を理解する。 4. 子どもや保護者に対する援助の実際と実践上の課題について理解する。 5. 臨床心理カウンセリングセンター業務に携わりながら、研修相談員としての態度と行動規範を理解して、遵守することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心理面接の一連のプロセス（インテーク、アセスメント、治療契約、面接記録作成）について、教員の実際の手法を織り交ぜながら実践的に指導することを意識した。 ・ 臨床実践における各自の課題を明確にし、学内外実習への導入となるような指導を心がけた。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 中谷 隆子

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
学校臨床心理学特論	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクールカウンセラーに関する知識を学ぶため。 ・ 様々な視点を学ぶため。 ・ 専門性向上のため。 ・ 興味があったため。 ・ 学校における臨床の現状を学ぶため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に役立った。 ・ 新たな視点を持つきっかけになった。 ・ 色々な視点の見方が役立った。 ・ 自分とは違う視点を持つことが出来た。 ・ 学校における対応の仕方を知ること。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足できた。(複数回答) <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございました。 ・ 特にありません。 	<p>学校という場における臨床心理学的支援に関する知識や技術について、教員から学生に向けた一方向型の講義形式ではなく、教員と学生による双方向型の授業を心がけた。</p> <p>具体的には、講義中に質疑応答、グループディスカッション、ディベートの時間を多く設けたり、毎回の講義後に各学生の感想や疑問について Forms を利用して収集し、次回の授業冒頭でフィードバックを行ったり等の工夫を行った。これらにより、学生の主体的で能動的な関わりを促進させ、教員側の視点のみならず、多角的な視点でもって授業内容について理解を深めることができたといえる。</p> <p>また、現代の学校現場における臨床心理学的課題について、学生自身が興味のあるテーマを選択し、探求学習及び発表する場を設けた。この工夫により、学生が課題を自ら発見し、その解決方法を模索し、さらにはその結果について他者へわかりやすく伝える資質や能力を育むことができたといえる。</p> <p>以上より、授業アンケートの「新たな視点をもつきっかけになった」などの感想を得ることができたと考えられる。</p>
臨床心理実習Ⅱ	秋期	3	<p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>1. 自己都合による欠席は認められない。諸般の事情により出席困難な場合は、事前に申し出て承諾を得ること。</p> <p>2. 実習にあたり、指導相談員への相談・報告を怠らないこと。</p>	<p>学生が臨床心理カウンセリングセンターで担当した事例に対する見立てやアセスメントのポイントについて、集団による検討のみならず、学生の個性や価値観をふまえた個別的で丁寧な指導を心がけた。また、ケース・カンファレンスにおける事例発表の留意点や資料作成時の重要なポイントについて、具体的かつ実践的に知識やスキルを体得できるよう、グループディスカッションやディベート等を積極的に導入し、アクティブラーニング形式で授業を行った。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 伊里 綾子

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理査定演習Ⅱ	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロールシャッハの取り方、分析の仕方について学びたかったため ・ 心理検査について学びたかったため ・ 卒業のため ・ 専門性向上のため ・ 必修科目だから <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚的な刺激に対する反応の分析の仕方が分かり、視野が広がりました ・ ロールシャッハテストについて学んだため、検査の取り方や、解釈などを臨床で役立つと思います ・ アセスメント力が身につき、実験を行う際にも役立ちそう ・ 結果の解釈や所見書の書き方などロールシャッハテストの知識・理解の向上 に繋がった ・ 今後、仕事の現場に役立ちますので、大変役に立つと思います <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が被検者、分析者の立場を体験でき、理解が深まりました ・ ひとつずつ解説して下さったため、満足しています ・ 満足 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	<p>投映法の心理検査であるロールシャッハ・テストの実施及び分析、解釈の方法について指導する科目であるため、受講者自身が体験的に検査の有用性を実感し、自身の今後の臨床に活かせるようにすることを意識してきました。</p> <p>具体的には、受講者が予習としてロールシャッハ・テストを体験し、その結果についての報告書を授業を通して作成するという方法を取ることで、受講者の臨床実践に体験を活かせるような工夫をしました。</p> <p>このような工夫をしたことで、一人一人が検査に興味を持ち、疑問点を積極的に解決しようとするモチベーションの向上につながったように思います。主体的に取り組むことで、目標としていた検査実施および分析・解釈の習熟につながったのではないかと思います。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 羽鳥 健司

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心理療法特論	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CBT の基礎を学ぶため。 ・ 臨床心理士にとって必要な知識です。 ・ 専門性向上のため。 ・ 興味があったため。 ・ 実践的なことを学べるため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CBT の枠を学べるため、臨床で用いる際に役に立つだろうと思います。 ・ 認知行動療法を学びました。今後、現場に使えると思います。 ・ CBT における枠組みやアセスメントの視点。 ・ 認知行動療法について学んだため、応用して考え方を役立てたい。 ・ 特に認知行動療法がどういうものでどういうもので、どう進めているのかについて細かく学べたので良かったです。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足です。(複数回答) ・ 認知行動療法の構造から進め方まで一から教えてくださったため、教科書で学べること以外にも学ぶことができた。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございました。 	<p>認知行動療法では、行動技法や認知技法を実施するための解説書や専門書は数多く出版されていますが、そもそもこれらの最先端の技法を使えるようになるために必要な基礎的な考え方、CI との接し方、Co の態度、CBT の共感、認知行動モデルの解説などは、独学ではできません。認知行動療法に限らないかもしれませんが、認知行動療法では特に、これらの基礎がしっかりと固められていないと、現場で使うことは全くできないと言っても過言ではなく、この部分を受講生たちがしっかりと身につけられるよう、繰り返し丁寧に授業を進めました。学生たちに少しでも伝わり、定着しているならば幸いです。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 羽鳥 健司

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
特別課題研究 I	通年	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・羽鳥先生の知見をもとに、論文の質を高めたいから。 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・「地図」「道筋」を手に入れることができ、研究が順調に進んでいます。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし。 	<p>心理学的実証研究を実施するための「作法」に当たる基礎的かつ最重要となる方法論をできる限り具体的に分かりやすく解説しています。学生が理解できないことは、その場ですぐに遠慮なく質問できるような安心感のある関係性を保ちながら、研究の目的とそこにたどり着くまでのデータ収集方法や分析方法を解説しています。「目的地とそこにたどり着く方法」はよく教えますが、たどり着くためには学生が自分の頭と足を使って進んでもらうようにしています。</p>
臨床心理実習 I (心理実践実習)	通年	5	<p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理支援の実践を行う施設における管理運営の知識、技能を習得する。 2. 心理支援を要する者に対するアセスメントとそれに基づく心理支援の実践的スキルを習得する。 3. 多職種間、地域での連携におけるチームの一員として公認心理師が果たす役割、知識、技能を習得する。 4. 公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務、および現場での実際的な対応を習得する。 	<p>本科目は、学内外において、実際のクライアントを対象とし、各施設および本学担当教員の十分な指導の下に、実際の心理臨床支援の提供または見学が実施されています。心理臨床の基本的な態度や技法はもちろん、社会人としてのマナーも指導しています。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 准教授
氏名 遠藤 寛子

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
健康心理実践特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	秋期	5	<ol style="list-style-type: none"> この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> とても重要な知識が含まれている授業だから。 心の健康のためにはどうすれば良いか考えられるようになった。 ストレスについて学びたかったから。 資格を得るため。・健康心理学の視点を得るため。 専門性向上のため。(健康心理学分野の知識の向上のため) この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ポジティブ心理学の視点から、研究結果を踏まえて、どんな支援がよりよいか理解した。 どのように自己実現に向かうのかを考えるほうが生産的と分かった。 ストレスについてなどの考え方について、ポジティブな側面から応用して考えられる内容だった。 CBT の話含め、研究の土台となる考えをインプットできた。 ストレスや不安に対する考え方。 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 新しい気づきが得られ、勉強になった。 満足しています。(複数回答) ありがとうございました。 こちらの研究内容や内容のあるものを考慮しながら取り入れてくださりありがとうございました。 授業内容や研究や臨床に応用して考えることができる授業展開だったと満足している。 満足している。(複数回答) この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> 特になし。(複数回答) 	<p>本授業では、心身の健康に関する心理学的な支援方法について修得できるよう講義するという内容になっていた。具体的には、ストレスマネジメントに代表される心の健康を維持する心理教育的支援の理論の理解を目指すだけでなく、実践を通して講義するよう心掛けた。</p> <p>また、感情ならびにパーソナリティについての理解につながるよう、心身の健康に関する心理教育と理論と方法を紹介した。</p> <p>本授業の目的は、「1.健康心理学に関する理論を説明できる。2. 心身の健康教育に関する実際の方法を理解できる。」といった2点であるが、授業アンケートより、研究と臨床の両側面から役立ったという結果が複数あり、授業の満足度も高かったことから、本授業の目標は到達できたと捉えている。</p> <p>授業に関しての要望はなかったが、臨床家を目指す学生たちの研究・実践双方の思考が深まるように、多様な先行研究から紹介したり、健康行動の心理教育についても触れて多角的な視点で授業を展開したいと考えている。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 泉水 紀彦

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理面接特論Ⅱ	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味があったから。 ・臨床心理面接についてその方法や身につけるべきスキルなどについて理解を深めたかったため ・色々な心理療法を体形化した知識・体験として学びたいから ・箱庭療法に興味があるので、この授業を履修します <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法をはじめとするリラクゼーションの有効性、プレイセラピーでの子どもとの関わり方やあるべき姿 ・マインドフルネスやフォーカシングなど実際に体験してその効果について考える機会になり、理解が深まりました ・自分の内面に着目したり、プレイセラピーなどを学べたため、臨床の実生活に役立つと思いました ・直接研究は関係ありませんが、臨床の役に立つように興味を持った内容を深ぼっています ・色々な療法を体験して学びました。今後のカウンセリングの中に役立つと思います。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた。(複数回答) ・体験的でDVDによる例などを通して学ぶ機会が多く、イメージしやすかったことがよかったと思いました ・実践的に体験・体感しながら学べたため、満足できました <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし(複数回答) 	<p>心理師の業務である「面接技法」に関する様々な知識や実践を行う科目であった。知識の理解をすでに行っていることを前提に、実際に様々な技法を体験的に学び、自分自身が実施者として行えるようになることを目的とした。催眠、フォーカシング、自律訓練法、マインドフルネス、ペアレントトレーニング、プレイセラピー、箱庭療法を体験的に学び、自身でも説明できる力をつけてもらった。</p>
臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	通年	5	<p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理支援の実践を行う施設における管理運営の知識、技能を習得する。 2. 心理支援を要する者に対するアセスメントとそれに基づく心理支援の実践的スキルを習得する。 3. 多職種間、地域での連携におけるチームの一員として公認心理師が果たす役割、知識、技能を習得する。 4. 公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務、および現場での実際的な対応を習得する。 	<p>心理実習Ⅰ(心理実践実習)は、学内実習と学外実習から構成されている。学内実習では、附属カウンセリングセンターにおいて、臨床指導教員の指導の下、カウンセラーとして面接を担当した。院生は、多くの事例を担当する中で、クライアントの理解を深め、自分の内面に向き合うことができるように、教員が丁寧に指導を行った。学外実習では、保健医療、教育分野において、実習指導者の指導の下、実習を行った。実習がよりよくなるように、大学教員、院生、施設側実習指導者が3者で話し合う機会を設けて連携し、授業の改善を行った。</p>

教員の授業報告

心理学研究科

職名 准教授

氏名 川久保 惇

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	秋期	5	<ol style="list-style-type: none"> この授業を履修した理由は何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> 卒業後に受験資格を得るため 公認心理士の必修科目だから 産業領域での心理的課題について理解を深めるため 知識を得るため 専門性向上のため この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 産業分野の論文を読み進めることで、自分の書きたい論文との比較ができるようになった たくさんの論文の中から、研究法や論文の書き方を勉強しました 産業領域においてどのようなことが問題視されているのかわかりました 自分の研究と関連のある研究が産業分野ではどのように行われているのか学び、ほかに分野でも応用できると感じた 研究内容のまとめ方、内容の解釈について全般的に役に立った 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> 満足できた。(複数回答) 普段とは違う領域の論文が見れてよかったです 自分の関心がある研究だけでなく、ほかにM1が関心を持っていることについても学ぶことができ、満足しています この授業について、要望があれば記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 	<p>産業・組織心理臨床とは働く全ての人を対象として、人が働くことに伴うさまざまな問題を整理し、その解決を支援していこうとするものである。本講義では産業・組織心理学などにもとづく理論を理解するとともに、働く人のメンタルヘルス問題、ストレスチェック制度や職場でのメンタルヘルス対策などについて考える機会を提供することを目的とした。</p> <p>講義では主に、産業・組織心理学に関する最新の論文の輪読を受講生全員で行った。学生が順番に用意してきた資料をもとにディスカッションをすることで、研究や実践を行う上で必要な考え方、高度な専門的知見、ならびに研究スキルを身につけることを目指した。教員主体の講義形式ではなく、受講生自身の関心のあるテーマについて主体的に紹介することを重視した。論文に関連する基本事項については、教員が解説することで内容を補足した。</p> <p>学生からのアンケート内容を見ると、満足した、役に立ったという記述が多かった。そのため、次年度も同様に、学生主体の講義運営を心がけていきたい。また、論文を輪読するだけでなく、研究の実施方法やデータのまとめ方、学会発表の手順についても講義内で解説していきたい。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 講師
氏名 佐藤 洋輔

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理基礎実習Ⅱ	秋期	5	<p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学的援助の専門家として必要な考え方や技能、倫理を身につける。 2. インテーク、アセスメントを適切に実施し、記録をまとめることができる。 3. 外部機関や関係者との連携における方法と留意点、実践上の課題を理解する。 4. 子どもや保護者に対する援助の実際と実践上の課題について理解する。 5. 臨床心理カウンセリングセンター業務に携わりながら、研修相談員としての態度と行動規範を理解して、遵守することができる。 	<p>全15回の授業のうち第7回「外部機関との連携①：方法と留意点」、第8回「外部機関との連携②：実践上の課題」、第9回「援助者の倫理」を中心として授業を担当した。当該授業の到達目標のうち、特に「3. 外部機関や関係者との連携における方法と留意点、実践上の課題を理解する」を達成するため、教育・医療・福祉などの各領域において求められる多職種連携の技能、臨床家としての倫理について講義を行うと同時に、具体的なケースを想定した陰性同士のロールプレイを授業内で実施した。このような取り組みにより、実際には白黒の判断をつけることが困難な場合が多い臨床上の問題について、「自分ならどのように対処するか」という経験を通じて学生の理解を促すことができたと考えられる。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 客員教授
氏名 柴田 勲

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解を深めるため。 ・興味があったから。 ・知識を蓄えるため。 ・知識習得のため。 ・専門性向上のため。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患についての理解が深まった。 ・疾患や薬の知識が、臨床に役立ちそう。 ・人間理解の面で役立った。 ・クライアントに対する理解に役立つ。 ・知識の向上につながった。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足できた。(複数回答) ・説明がわかりやすかった。 ・生徒たちに寄り添った授業であった。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。 ・特にありません。 	<p>受講者の学習意欲を高める為に初回の講義の際、関心のある分野について聞き取りを行い、そこに関してはより深い内容で講義を行った。実際には薬理と不安障害、気分障害に関しての関心が高く教科書には記されていない臨床現場での生の話を絡めながら包括的な講義を行った。アンケートからも受講者の満足度は高かったと思われる。他の分野に関しても我々の身近で起こっている事柄と関係付けながら講義を行った。来年度も同様に受講者のニーズにあった講義に努めたいと考えております。</p>

教員の授業報告

心理学研究科
職名 客員教授
氏名 山本 晴義

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心身医学特論	秋期	5	<p>1. この授業を履修した理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山本先生の考え、視点を自分にトレースし、活用するため。 ・ 専門性向上のため。 ・ 興味があったため。 ・ 医学領域における薬物治療以外の対応などについても知りたかったため。 ・ 必修科目だから。 <p>2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接研究に関連があるためではないが、これら心身疾患の知識は臨床現場で役に立つと思う。 ・ 働く人のメンタルケアに関する支援。 ・ 疾患やメール相談について学べたので、臨床に役立てられると思いました。 ・ 精神疾患持つ方への声掛けやメール相談などの非対面の対応の際に心がけることなど知ることが出来たと思う。 ・ 心身症について理解しました。今後現場に行くと、活用できると思います。 <p>3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足できた。(複数回答) ・ 事例を出しながら進めて下さったので、具体的な内容が分かりやすく、満足できた。 ・ 大学院生として、今の時期にどのようなことを学ぶべきか、今後どう生かしていくかなども考えることが出来たので良かった。 <p>4. この授業について、要望があれば記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対面で会ってみたいかったです。 ・ 特になし (複数回答) 	<p>コロナ禍の影響で、授業をすべて、オンライン (ZOOM 会議) としたために、ライブ講義のような臨場感はなかったように思える。しかし、その分、オンライン講義では学生との質疑応答等のコミュニケーションの時間を多くとるように心掛けた。</p> <p>臨床医 (心療内科医) の立場と産業医の立場から、学生が将来役立つと思われるメンタルヘルス不調の事例を多くとりあげ、事例性と疾病性の両面から掘り下げていくことに心掛けた。</p> <p>配布資料もなるべく新しいものを配布すると同時に、レポートの提出は、毎回指示し、即日に提出するように課題を与えた。</p> <p>このやりとりの反応はよく、学生の理解度の把握に役立った。</p> <p>全般的に、学習意欲の高い受講生で、講義をする立場からもやりやすい授業であった。(山本晴義)</p>

5 研究発表会及び意見交換会

大学院担当教員相互の研究交流を図るとともに、学生及び教員との意見交換の場を設け、今後の大学院の教育研究活動の活性化に資することを目的として次の研究発表会及び意見交換会を実施している。

5 - 1 研究発表会

日 時：令和4年9月7日(水) 11:00～12:00 (講演 40分、質疑応答 20分)

場 所：403教室

参加者数：14名(専任教員11名、大学院生3名)

内 容： 発表者：羽鳥 健司 教授

テーマ：「炎症性腸疾患に対する健康心理学的援助に関する展望」

5 - 2 大学院専任教員と大学院生による意見交換会

日 時：令和4年10月26日(水) 15:20～17:30

場 所：心理学実験実習室

参加者数：21名(教員13名、大学院生8名)

内 容：院生からの主な意見

- ・授業を受けて実践面も含めて、様々な領域における理解が深まった。
- ・以前に臨床実習に関して諸々の要望を伝えたが、すぐに対応していただき感謝している。

教員の主な意見

- ・他に要望等あったら伝えてほしい。要望については、できること・できないことがあるので、大学の担当部署と相談しながら対応していきたい。

6 論文審査について

本大学院心理学研究科では、修士論文作成過程において、1年次の秋期に構想発表会、2年次に2回の中間報告会を実施することとしている。各個別報告の詳細は次の通りである。

令和4年度の報告会及び最終試験は以下の内容にて行った。

6-1 修士論文中間報告会・構想発表会

(1) 第1回修士論文中間報告会(2年次生対象)

日 時：令和4年6月22日(木) 13:30~15:20

場 所：心理学実験実習室

【第1回修士論文中間報告会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時間	発表者	指導教員
13:30~13:40	研究科長挨拶	
13:40~14:10	20MP0001 池田 美涼	藤枝 静暁
14:10~14:40	21MP0001 関 彩里	藤枝 静暁
14:40~15:10	21MP0002 宮崎 晃平	藤枝 静暁
15:10~15:20	講	評

(2) 修士論文構想発表会(1年次生対象)

日 時：令和4年9月28日(水) 13:00~15:55

場 所：心理学実験実習室

【修士論文構想発表会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時 間	発表者	指導教員
13:00~13:05	研究科長挨拶	
13:05~13:35	22MP0001 梶原 真衣	藤枝 静暁
13:35~14:05	22MP0002 加藤 大輔	藤枝 静暁
14:05~14:35	22MP0003 佐藤 ヒロユキ	大川 一郎
14:45~15:15	22MP0004 肖 婷	藤枝 静暁
15:15~15:45	22MP0005 西田 修也	羽鳥 健司
15:45~15:55	講	評

(3) 第2回修士論文中間報告会(2年次生対象)

日 時：令和4年10月26日(水) 13:30~15:20

場 所：心理学実験実習室

【第2回修士論文中間報告会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時 間	発表者	指導教員
13:30~13:40	研究科長挨拶	
13:40~14:10	20MP0001 池田 美涼	藤枝 静暁
14:10~14:40	21MP0001 関 彩里	藤枝 静暁
14:40~15:10	21MP0002 宮崎 晃平	藤枝 静暁
15:10~15:20	講	評

6 - 2 学位論文発表会及び最終試験

日 時：令和5年2月7日（火）10：00～12：00

場 所：心理学実験実習室

【学位論文発表会及び最終試験】（口述試験を兼ねる）

時 間	発表者	指導教員	研究テーマ
10：00～10：30	20MP0001 池田 美涼	藤枝 静暁	大学生が抱いている教員のイメージが相談希求に及ぼす影響
10：30～11：00	21MP0001 関 彩里	藤枝 静暁	養護教諭の職務における養護教諭と教諭間の認知差に関する探索的研究
11：00～11：30	21MP0002 宮崎 晃平	藤枝 静暁	システムエンジニアを対象とした仕事遂行を支援するソーシャルスキルの解明
11：30～12：00	審査委員会		

8 おわりに

本年度も無事に8回目の修了生を送り出すことができた。この間の取り組みの成果については、掲載されている学生の授業評価や教員の授業報告にも見る通り、概ね満足の得られる大学院教育が達成できていると評価できる。修了生たちが臨床心理士および公認心理師として現場で活躍し始め、少しずつではあるが、埼玉学園大学のキャンパスに臨床心理学研究と実践の文化が根付きつつあるという感触を得ている。教員自身の研究活動の面でも、特に若手教員を中心に、より活発な研究成果が得られる展開を期待している。

修了生全体の臨床心理士資格取得率は8割以上を超えていること（臨床心理士（合格者24/受験者26））、また公認心理師の合格者も例年輩出している（公認心理師（合格者24/受験者26））ことから、今後も、教員を中心に、今まで以上に積極的に受験準備の支援を行い、在学中から院生が臨床心理士受験および公認心理師受験に向けて必要十分な専門知識と援助スキルを習得できるように指導を徹底していきたい。

埼玉学園大学大学院FD委員会規程

平成22年 5月12日制定

(目的及び設置)

第1条 本大学院に、授業内容及び教育方法を改善し、その質的充実を図るとともに、教員の教育力の向上に資すること（Faculty Development。以下「FD」という。）を目的とし、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任 務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について組織的な推進を図ることを任務とする。

- (1) FD活動の企画立案に関すること
- (2) FD活動に関する情報収集及び提供に関すること
- (3) FD活動についての評価及び報告書の作成に関すること
- (4) 学長の諮問した事項に関すること
- (5) その他大学院のFDの推進に関すること

(組 織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 専攻主任
- (3) 専任教員のうち、研究科委員会より選出された教員 若干名

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員長は研究科委員会の議を経て、学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(会 議)

第6条 会議は、過半数の委員の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事 務)

第8条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

附 則

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に就任する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成23年3月31日までとする。

令和〇年〇月〇日

大学院心理学研究科
授業担当教員 各位

大学院心理学研究科
FD委員長 大川 一郎

学生向け授業に関するアンケート実施のお願い

埼玉学園大学大学院心理学研究科の授業につきましては、日頃より格別のご指導、ご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和〇年度〇期の授業アンケートを下記のとおり実施することとなりました。

つきましては、アンケート実施の趣旨をご理解いただき、実施していただきたく、ここにお願い申し上げます。

ご負担をおかけいたしますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

記

1. 実施期間 令和〇年〇月〇日～令和〇年〇月〇日
2. 対象授業 講義科目、研究指導科目
3. 実施・回収
 - ・アンケートの実施科目は、履修者が2名以上の講義科目及び研究指導科目を対象とする。
 - ・担当教員は所定のアンケート用紙（人数分）及び回収袋（1袋）を授業終了前の10～20分に配布する。
 - ・担当教員は回収袋にあらかじめ実施日・授業担当者を記入する。
 - ・アンケート実施後、学生自身がアンケートを回収袋に直接入れ、最後の学生に封をするよう指示をする。
 - ・封をした学生に教務課へ提出するよう指示をする。
4. 授業アンケート結果の活用
授業アンケートは集計し、FD活動報告書に掲載する。

以上

授業についてのアンケート（講義科目、研究指導科目）

科目名（ ）

教員名（ ）

月 日 曜日 時限実施

※上記、記載漏れがないようお願いします

大学院の授業の質的向上のために、アンケート調査を行います。下記質問について、自由に記述してください。なお、このアンケートが成績評価に影響することは一切ありません。

1. この授業を履修した理由は何ですか？
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか？
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
4. この授業について、要望があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました。

参考資料4

教員の授業報告

心理学研究科
職 名
氏 名

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、 改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)

参考資料5

中間報告会の振り返り

埼玉学園大学大学院 心理学研究科

学生番号	氏名	指導教員名
中間報告会までの準備を振り返ってどのような点が反省点としてあげられますか		
論文指導についての意見は何かありますか		
中間報告会での各教員からのアドバイスは、今後の論文作成において、どのように参考になりましたか。		

※書ききれない場合は、行数を増やしていただいて構いません。